

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500291		
法人名	医療法人社団 生和会		
事業所名	グループホーム 和み		
所在地	山口県周南市大字湯野4298番地1		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年7月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉街の静かな山間で、季節の移り変わりを肌で感じられる事のできる環境、立地条件にあります。同法人の医療法人もすぐそばにあり、安心して生活が送れます。利用者様と共に生活を送る共同生活者として、朝昼夕3食の献立を考えながら、一緒に料理作りを行い、出来る事は自信を持って行って頂けるよう支援しています。コロナ禍で屋外へ出掛ける事は困難となっておりますが、ドライブや散歩、庭での行事など毎日楽しく生活を送っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、事業所独自の理念「住みなれた地域の中でたくさんの笑顔と自信をもって、共に暮らし続ける場を提供します」を、毎日の申し送り時や月1回のミーティング時、カンファレンス時に確認して共有され、日々のケアの中で実践されています。食事は、三食とも事業所で調理しておられ、利用者の状態に合わせて、きざみ食やミキサー食、とろみ食などの形状を工夫されています。利用者は、皮むきなどの下ごしらえ、電磁調理器を使つての調理、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にされています。季節の行事食(おせち、七草粥、母の日や父の日のちらし寿司、クリスマス・忘年会のケーキ)、おやつづくり、春まつりには庭にテントを張つての食事、家族の協力を得ての外食など食事を楽しむことができるように支援されています。テレビの視聴、雑誌や新聞を読む、習字、貼り絵、ぬり絵、折紙、トランプ、カルタ、お手玉、脳トレ、壁画づくり、的あて、風船バレー、ボール投げ、魚釣りゲーム、福笑い、豆まき、歩行練習、テレビ体操、ラジオ体操、口腔体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、花壇の水やり、草取り、食事の手伝い、ひな祭りや春まつり、七夕まつり、敬老会、クリスマス、忘年会など季節の行事、誕生日会など活躍できる場面づくりをされ、楽しみごとや気分転換などの支援をされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関先や各ユニットへ掲示し共、カンファレンス時、申し送りの際に共有することで利用者・職員が寄り添って生活できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、毎日の申し送り時や月1回のミーティング時、カンファレンス時に理念を確認して共有している。職員は、いつも笑顔で声掛けし利用者が楽しく過ごせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やお祭り、和みカフェを通じて地域の方とあいさつや談話で交流してきたが、現在はコロナ禍により休止となっている。	例年実施していた認知症カフェや法人のお祭り、託児所の子供たちとの交流、中学生の職場体験が、コロナウィルス感染予防のために中止となり、地域の人との日常的な交流は難しくなっている。現在は、事業所周辺での散歩時に会う人たちと挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習への事業所開放を行っていたが、コロナ禍により、現在は休止としている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価を記録し、日々の支援の振り返りを行い問題点を話し合い、ケアの改善、向上に努めている。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、評価するための書類を全職員に配布して個々に記入してもらい、ミーティング時にユニットリーダーを中心に各項目ごとに話し合い、まとめている。自己評価をすることで、日々の業務の再確認をしており、コロナ禍で家族との面会が少なくなる中であって、利用者への声かけや対応について日々のケアの振り返りを職員間で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催は行っておらず、書面での情報提供・報告となっている。書類提出の際、ご意見を頂けるようにお声掛けしている。	会議は年6回開催し、感染予防対策から全部書面開催とし、利用者の状況、職員の状況、行事の予定や実施報告、ヒヤリハット・事故報告、感染症対策・予防、身体拘束適正化委員会の報告を行い、委員には意見書を同封している。前回の外部評価結果から、会議を活かした取り組みとして、日常生活に対する意見や地域の情報を知る場所として、地域の人へ参加の呼びかけを行うことを検討しているが、感染予防対策から実現に至っていない。	・地域メンバーの参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員・地域包括支援センター職員、介護相談員の方々が運営推進会議のメンバーに入っておられ、直接運営やサービスについて電話、メール、訪問などし、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり、電話やメールで相談して助言を得たり、情報交換しながら協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や認知症に関する相談をして助言を得るなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を毎月ミーティングで開催し、職員全員が身体拘束をしないケアを基本的に取り組んでいる。また、一人一人の状態を把握し、個々に応じた対応を行っている。	身体拘束排除マニュアルを基に、職員は、内部研修で身体拘束について学び、理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。月1回のミーティング時に身体拘束委員会を開催し、運営推進会議で報告している。玄関は施錠しないで、外出したい利用者があれば、職員が話を聞いたり、一緒に出かけるなど、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、職員間で話し合い、気になる場合は管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングにて職員全体で認知症の理解も深めながら、虐待防止についての研修も行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修内容を職員全員で共有を行い、ご家族に対しては制度の内容をご説明できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のサービスについて十分なお説明をさせて頂き、ご理解・納得されたうえでの締結・解約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制、第三者委員会、処理手続きの定め等契約時にご家族へ説明している	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続き等について家族に説明している。家族からは、面会時、電話、メールやSNSでのメッセージ、事業所だよりの送付時に意見や要望を聞いている。事業所だよりに、利用者の笑顔があるスナップ写真などを個別に掲載するなど工夫している。ケアに関する意見はその都度対応しているが運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティングに介護部長の参加があり、意見や提案を出してもらっている。また、法人報告会があり、運営状況や職員情報など意見を伝える機会がある。	管理者やユニットリーダーは、毎日の申し送り時や月1回のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で随時相談に応じている。管理者は、月1回の法人報告会へ出席している。法人の人事考課として、6ヶ月に1回、支援部長の面談を実施している。利用者への対応方法などの業務改善、職員の勤務体制の変更などについて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の見直しとして、ノー残業デーを取り入れており、休憩時間にはスタッフ同士で声を掛けあうなど、やりがいや向上心が持てる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修は困難な状況にあるが、施設内研修をユニットミーティングにて行っている。また、オンライン研修なども取り入れ受講確保に努めている。	外部研修は、職員に情報を伝えて、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。県主催のウェブ研修(ハラスメントについて)に参加し、受講後は、ミーティングで復命し、資料は閲覧できるようにしている。内部研修は、年間計画に沿って、感染予防、認知症、介護リスクマネジメント、介護事故の防止、高齢者虐待防止、接遇マナー、介護記録の書き方、プライバシー保護、介護保険制度、身体拘束防止、災害時の対応などについて月1回のミーティング時に実施している。新人研修は、マニュアルに基づき、管理者やユニットリーダーの指導の下、働きながら学べるよう支援している。	・外部研修参加の工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入やケアマネージャーさんとのネットワーク作りや情報交換は行っているが、コロナ禍により、勉強会等への参加は行っていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様と面談を行い、不安な事や要望の聞き取りを行いながら、不安なことや支援について職員一同周知している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様と面談を行い、心配されている事を把握し、安心できる説明や必要とされている支援等を把握し、職員一同周知し支援に取り組んでいる。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは何が一番必要な支援かを本人様ご家族様アセスメントを使用しながら把握し、職員一同で優先順位を見極め対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活(食事作り・洗濯たたみ・干し)を一緒にやり、過剰な支援は行わずも利用者様にも達成感が持てる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ入所者様の状態を月次報告書にて伝え共有している。体調変化時には常にご家族へ連絡し、対応を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により窓越し面会ではあるが、継続して交流が図れるよう年賀状や電話の取次ぎ等行っている。	家族や親戚の人との窓越し面会がある他、年賀状や手紙、電話の取次ぎなどで交流を支援をしている。事業所による自宅周辺へのドライブや家族の協力を得ての受診、外出、外食、葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	・オンラインを活用した面会の工夫
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を築きながら席の配置に努めている。時折間に入りながら、会話が弾むよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談など手伝えることがあればと声を掛けさせていただき、対応・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得られた情報や日常生活の中から、ご本人様やご家族様からの会話を記録に残し、おもいや希望の確認・検討を行っている。	入居時は、事業所独自のアセスメントシートに記入している他、日々の関わりの中で利用者との会話や表情、行動などを介護記録に記録して、職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。アセスメントシートは6ヶ月毎に見直し、作成している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供時の生活歴からだけでなく、会話の中からの情報も収集している。ご家族様との会話の中からもお話を聞きし、入所されてからの生活に活かしていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録(タブレット入力)や職員全員が把握できる体制を取り、変化に気付ける様、観察に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにおける援助内容の実施結果をタブレット端末(介護記録)に入力し、モニタリングを活用している。また、定期的にアセスメントシートを記入し、ケアプランの作成に活かしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が介護記録(タブレット)にケア内容や気づき等を記録や画像で入力し、情報の共有をしている。月に一度のミーティングで利用者の個別援助について意見交換をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変の受診同行や、物品の購入の検討		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の道の駅での買い物や公園への散歩を行うことにより、地域住民との交流が図れていたが、現在は感染症対策の為に中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時、通院先を選択して頂き、毎月1～2回の定期受診や訪問診療を受けられている。</p>	<p>事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは、月2回の訪問診療の他、週1回、訪問看護師の健康管理がある。協力医療機関以外をかかりつけ医としている場合の定期受診や他科受診は、家族の協力を得て、事業所で支援している。受診の結果は、電話や面会時に家族へ伝えている。希望によって、歯科の訪問診療が受けられる。夜間や緊急時は、管理者を中心に、協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異変に気づいたら訪問看護へ連絡し、診察等を行っている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には病院やご家族と常に連絡を取っている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>提携の病院等へ転院できるよう説明を行っている</p>	<p>契約時に、「重度化した場合における対応に関わる指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急連絡網を作成し、緊急時に備えるとともに救命救急の講習に年2回参加している。	事例が発生した場合は、その日の職員間で対応策を話し合い、管理者に報告した後、ヒヤリハット・事故報告書に記録して、他の職員には申し送り時に報告し、回覧している。月1回のミーティングで再検討して事故防止に取り組んでいる。内部研修で、感染症予防やリスクマネジメントについて学び、再発防止に取り組んでおり、事故対応としては、年2回の救急救命講習への参加があるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、年1度の土砂災害訓練を行い、近隣の病院等に協力を依頼している。	防災マニュアルを作成している。年1回の土砂災害を想定した避難訓練を実施している他、年2回、火災を想定した消防訓練として、通報訓練、病院への応援依頼、避難誘導を行っている。事業所独自で、市の防災情報伝達訓練を行っている。法人としての緊急連絡網があり、法人の職員の他、警察、支所、近隣の病院が入っている。非常時における備蓄は、法人全体として整備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人コミュニケーションを図り、寄り添うような声掛けをしている。	職員は、内部研修で接遇マナーについて学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応があれば、管理者やユニットリーダーが指導している。個人情報や管理や取り扱いに留意すると共に、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣など好みなどもあるので聞きながらゆっくり話しながら選んで決めてもらうような声掛けをしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに添った声かけを行い、職員と一緒に行動することでまだできることがたくさんあって充実できるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みなどもある為、出来るだけ浴うように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り一人一人が得意としている事、好きな事を一緒に取り組むことで表情良く楽しく過ごせるよう努めている。	食事は、利用者の希望を聞き、職員が献立を考えて、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせてきざみ食、ミキサー食、とろみ食など形状を工夫している。利用者は、皮むきなどの下ごしらえ、電磁調理器を使つての調理、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、七草粥、母の日や父の日のちらし寿司、クリスマスのケーキ)、おやつづくり(ゼリーなど)、春まつりに庭にテントを張つての食事、家族の協力を得ての夕食など食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状況を観ながらトロミなどを入れ、むせ込みがない様支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア後、口腔内に残渣物がないか確認している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレで排泄が出来るよう排泄の時間の間隔や前回の排泄の有無・量を把握しトイレ誘導を行っている。ご自分の力を使って頂き、必要な介助を行っている。	排泄記録を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境のバランスを良くできるよう食事には野菜・フルーツ・ヨーグルト等なるべくたくさん取り入れ規則正しい時間に提供している。毎日の体操や個々に応じた運動を一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の声かけを行い、一人一人のペースに合わせて必要な介助を行っている。	入浴は、毎日可能で、9時から11時30分の間に、一人ひとりの希望や体調に応じてゆっくりに入浴できるよう支援している。利用者の状態に応じて、清拭、シャワー浴、部分浴、足浴など個々に対応している他、入浴剤を使ったり、ゆず湯など季節に応じた工夫をしている。入浴したくない人には、声かけの工夫や時間の変更、職員の交代など無理強いをせず、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて居室で休んで頂いたり、気持ちよく眠れるよう寝具を清潔にし整えている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作り、薬を把握し、飲み込みの確認を行っている。日々の状態を把握し、変化がないか観察に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや作品作りなど日々の生活の中で一人一人の特異な事や好きな事を一緒にやり、楽しく過ごせる場面作りに努めている。	テレビ(時代劇、ワイドショー)の視聴、雑誌や新聞を読む、習字、貼り絵、ぬり絵、折紙、ランプ、カルタ、お手玉、脳トレ(計算、漢字、絵合わせ)、壁画づくり、的あて、風船バレー、ボール投げ、魚釣りゲーム、福笑い、豆まき、歩行練習、テレビ体操、ラジオ体操、口腔体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、花壇の水やり、草取り、食事の手伝い(電磁調理器を使っでの調理、下ごしらえ、盛り付け、食器洗い)、季節の行事(ひな祭り、春まつり、七夕まつり、敬老会、クリスマス、忘年会)、誕生日会など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様希望を確認し、日光浴や散歩を行っている。	コロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、感染対策に配慮し、毎日の事業所周辺の散歩や公園の緑を観たり、自宅周辺へのドライブに出かけている。家族の協力を得ての受診、外出、外食、葬儀への出席など、戸外へ出かけられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望のある方にはご家族と相談し、許せる範囲内でお金を所持されている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日の贈り物などお祝いの電話や年賀状を記入している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な温度設定を行い、電球の明るさも物を見るのに適度な明るさを保っている。	玄関には置物を置き、事業所だよりを掲示している。居間兼食堂は掃き出し窓になっており、差し込む陽ざしで室内は明るく、鉢物があり、大きな食卓や椅子、テレビ、ソファを配置して、畳スペースには座ったり横になったりと利用者が思い思いにゆったりと過ごせるよう工夫している。壁面には、事業所の理念、カレンダー、季節の飾り、利用者の作品を飾っている。対面式の台所からは、調理やご飯を炊く匂い、食器を並べる音が聞こえ生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは席の隣同士の方と楽しく会話されている。1人になりたいときはソファで過ごされる事もある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人が使い慣れたタンスの持参されるなど居心地の良く過ごせるように工夫・支援している	テレビ、整理ダンス、衣装ケース、椅子、時計、ぬいぐるみ、本人が作った日本人形、化粧品、雑誌、本など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や孫が描いた絵、家族からの手紙、生花を飾り、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事支援に積極的に参加され、食事作りや洗濯たたみに参加されている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム和み

作成日: 2022年 6月 29日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	現在、虐待となる事例はないが、感染症予防の為、面会の制限があり、ご家族や他者の訪問がない中、職員一人一人の入居者様への対応を再確認していく必要がある。	代表者や管理者、職員一人一人が入居者様と共に寄り添って生活が送れるよう、介助の仕方や声掛け等、常に心掛けながら接していく。	虐待に関する施設内研修を定期的に行う。職員一人一人が自らの介助の仕方や発言を見直し、職員同士確認し合っていく。	1年
2	7	運営推進会議を活かした取り組みにおいて、現在感染症予防の観点から、文章による報告、情報提供であり、開催できていない状態。	運営推進会議が開かれる際は少しでも多くのご家族様や地域の方々に参加して頂き、色々なご意見が頂けるようにする。	現在、運営推進会議は感染症予防の為、文章による情報提供、報告の形であるが、再開の際はご家族様や地域の方々等に書面や電話などを通じ参加を促す。	1年
3	20	現在、感染症予防の為、家族の方が施設に来てご本人様や職員と触れ合う時間が持ておらず、面会にも制限がある。感染症予防をしながらも本人様やご家族様、職員の関係が浅くならないようにしなければならない。	面会が減ったり直接面会が出来なくてもご本人様やご家族様、職員の関係や絆が深まるようにしていく。	月次報告書にてご家族様に状況を伝えたり体調や状態変化等見られた際は電話にて情報共有を行う。また、窓越しでの面会を行っている為、窓越し面会の情報を発信し、希望の日時を確認して面会をして頂く。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。